



久 慈 年 和
(立憲農民クラブ)

奥入瀬溪流の土砂堆積等 に対する市の見解は 自然現象で起こり得る 変化の範囲内と理解

問 近年指摘されている奥入瀬溪流の土砂堆積や流れの変化に対する市の見解は。

答 目視や県等から提供される放流量データの情報を得て確認していますが、降雨量、倒木等多様な要因によるもので、自然現象で起こり得る変化の範囲内と理解しています。今年度、市では「十和田湖および奥入瀬溪流」の計画的な保存や活用のため、新たに保存活用計画の策定に取り組んでおり、溪流の主要なポイントで現状の記録調査を行い、その結果を県や関係機関と共有、連携し、保全に努めていきます。

問 教員のなり手不足や、定年前退職教員の増加に伴い、全国的に教員不足が深刻化しているが、当市の状況は。

答 現在、専科指導教員として加配対象の4名、産休による代替教員1名、指導の充実のため措置される非常勤講師1名の計6名が未配置ですが、今後、産休による代替教員は配置予定です。

問 教員不足の認識はあるか。

答 未配置が生じていることから、教員不足と認識しています。

問 長期病気休暇や休職している教員はいるか。

答 令和6年9月1日現在、長期病気休暇の取得や休職をしている教員はいません。

問 教職員の負担を減らすため、保護者対応を一元的に行う子育て応援・相談センターを設置する考えはないか。

答 保護者からの苦情や要望の中には、質の高い教育活動を進める上で重要な内容を含んでいる場合があることや、学校のみで対応が困難な事案については教育委員会と情報を共有し、関係機関と連携して問題解決が図られていることから、センターの設置は考えていません。



工 藤 正 廣
(明政一心会)

20年後、30年後 どのようなまちにするのか 持続可能な魅力あふれる まちを創出したい

問 少子高齢化や人口減少が進む中、20年後、30年後にどのようなまちにするのか。

答 雇用の確保や子育て環境の充実などに取り組んでおり、特に若年子育て世帯への施策等を積極的に展開し人口流出の歯止めに努めてきた結果、当市の移住、定住支援事業を活用する移住者は増加しており、成果が着実に表れてきています。また、施設老朽化による維持管理費の増加を見据え、公共施設等管理計画に基づく建て替えや長寿命化、解体に取り組み、将来の負担軽減に努めるなど、将来にわたり持続可能な魅力あふれるまちを創出したいと考えています。

問 病院経営改革では、地域医療連携推進法人上十三まるとネットのような医療連携をもっと拡大し、広域事務組合のような形での運営も手法の1つと思うが、将来に向けた構想は。

答 地域一体型の取組として、人口減少や医療の担い手減少等を踏まえ、経営強化の観点から、相応のダウンサイジングや機能分担、業務連携に取り組む、限りある医療資源の利活用や法人内での人材育成、人材交流による人的資源の確保などにより、上十三全体の持続的な医療提供体制の維持に努めていきたいと考えています。

問 市長公約にある病院経営健全化について、開設者としての考えは。

答 本年3月に十和田市立中央病院経営強化プランを策定し経営改善に努めていますが、入院患者数はコロナ禍以前の水準に回復しておらず、人件費の上昇などによる費用の増大など、厳しさを一層感じています。病院事業管理者とより連携を取りながら、市民生活に欠かせない中核病院としての役割を果たしたいと考えています。